

# 結核地域格差の是正を目指して

## 平成12年度 地区別講習会実施報告

各都道府県の特対事業の実績報告や相互検討及び専門家による講義の場を設け、結核地域格差の解消と一層の結核対策の推進を図ることを目的とし、地区別結核対策従事者講習会（以下、地区別講習会）が、今年度も各地区で開催されました。

各地区の担当県の方に、報告していただきます。

### 北海道地区

北海道保健福祉部保健予防課

主任 渡辺幸子

今年度の北海道地区の地区別講習会は全国7ブロックのトップを切って6月1日、2日に開催しました。

北海道では、広域な土地柄から、例年単独ブロックで開催していま

すが、本講習会は結核研究所の講師の方々から、直接結核対策に必要な最新の知識や学問の進歩に即応した技術が取得できる貴重な機会であることから、関係者の関心はことさら高く、今回は全道から総勢200名もの受講者を得ての開催となりました。

1日目及び2日目午前の中職種を対象とした全体講義では、結核研究所石川副所長から「結核緊急事態宣言以後の結核対策」と題し、最近の結核の動向と新しい対策の必要性や結核の積極的疫学調査などについて、診療放射線技師を対象とした講義では、中野放射線学部長から「X線写真に影響を及ぼす因子」と題し胸部X線写真の画質と被曝などについて、保健婦（士）を対象とした講義では、小林保健看護学科長から「結核対策と保健指導」と題し、予防対策の

仕組みや保健指導の実際などについてそれぞれお話ししていただきました。

また、2日目は厚生省結核感染症課の佐藤感染症情報管理室長をお迎えして「結核対策の現状と問題点」についてご説明いただきましたが、いずれもそれぞれの専門分野に関する最新の知識・情報が盛り込まれた貴重な講義であり、また、受講者からの質問、発言も相次ぐなど、大変活発な場となりました。

地域の結核対策の第一線で活躍されている医療従事者や保健所職員の方々は、結核対策の要として重責を担っており、こうした方々に対する期待はますます高まるものと思われまますので、本講習会が今後とも充実したものとなるよう、主催者として努力してまいります。

### 東北地区

青森県健康福祉部地域福祉健康課

総括主査 三和千枝子

東北地区の地区別講習会を青森

市において6月8日～9日の2日間開催しました。

「結核緊急事態宣言」から1年経過し、結核予防の重要性の認識の高まりを受けて、210名の参加を得、盛会裡に終了することができました。

2日目の午後は、昨年度に引き続き、好評を博した北海道・東北6県及び政令市等結核対策行政担当者情報交換会を実施しました。

各県・政令市等の担当者のほかに各県のオブザーバーを含め57名の出席者の下に、結核研究所保健看護学科長の小林先生に座長をお願いし、結核予防会顧問の島尾先生、青森県十和田保健所の宮川所長をアドバイザーとして、主な次のテーマについて情報交換しました。

1. 結核緊急事態宣言後の実施事業内容
2. 平成11年度、12年度の特対事業の紹介
3. 各県から出されたテーマ
  - ① 特対事業の実施内容の企画と評価の方法
  - ② 結核の根絶または結核指標値

の改善に向けた具体的な数値  
目標

③高齢者のI・N・H予防投薬事業  
の実施状況

④定期外検診の処理方法と管理  
について

⑤結核病床の確保について

⑥結核集団感染等の事例発生に  
対する所内・県内の体制等

⑦接触者検診を医療機関に委託  
している場合の条件

また、アドバイザーの先生方か  
らは今後の方向づけとなる的確な  
助言をいただきました。

なお、お忙しい中、各道県等か  
ら提出いただいた資料は、今後の  
結核対策の評価検討に役立つ貴重  
なものばかりでした。

この情報交換会も回を重ね、各  
道県の距離が近くなったことを実  
感しています。

今後も担当者の熱意を活動の工  
ネルギーにできる会として継続し  
ていけるよう努力していきたいと  
思っています。

## 関東甲信越地区

群馬県保健福祉部保健予防課

係長代理 山崎 稔

平成12年度の関東甲信越地区に  
おける地区別講習会は、群馬県が  
担当県として、6月29日、30日の  
2日間、群馬県庁内の会議室で開  
催しました。

当日は、県内の市町村や検診機  
関からも多数の受講者がありまし  
た。日頃、結核対策に関わる専門  
家や厚生省の担当課の方の話を直  
接聞く機会の少ないこの様な方々  
にとっては、非常に有意義であり、  
各都道府県が持ち回りで本講習会  
を開催する最大の利点となってい  
るのではないかと感じております。

講習会は、厚生省結核感染症課  
の藤井課長補佐、結核研究所の森  
所長、山下対策支援部長、中野放  
射線字科長、複十字病院の水谷第  
一診療部長を講師にお迎えし、合  
同講義及び職種別の講義を開催し  
ました。特に昨年結核緊急事態宣  
言が出されてから、関東甲信越地  
区で初めての地区別講習会という  
こともあり、参加者は、例年にも

増して熱心に受講していたよう  
です。

また、厚生省の藤井補佐には、  
横浜市で行ったDOTSの事例な  
どを交えながら結核の現状を講義  
いただくと共に、昨年4月に施行  
された感染症新法についても概略  
を説明していただきました。

特対事業の企画・評価に関する  
研修では、森、山下両先生から助  
言をいただきながら、各都県の平  
成10年度実施事業を各担当者で検  
討しました。担当者にとって、特  
対事業の計画立案は頭を悩ます問  
題であり、各都県の実施事業は私  
にとつて大変参考になったところ  
です。

そして、特対事業を検討してい  
く中で、特に問題となったのが、  
精神病院における入院患者の定期  
結核健康診断の実施方法でした。  
これについては、特対事業を利用  
して検診を実施している都県もあ  
りましたが、特対事業はあくまで  
一時的なものであり、定期健診と  
して、恒常的に実施する方法がな  
いのかという点に議論が及びまし  
た。具体的な解決策は得られませ

んでしたが、市町村と連携をとり  
ながら、これら入院患者を一般住  
民として実施することを検討して  
いる県もあり、今後、何らかの形  
で結論を出さなければいけない問  
題ではと考えております。

最後に、当講習会に参加下さい  
ました皆様にごの場をお借りして、  
深く感謝申し上げます。

## 東海北陸地区

静岡県健康福祉部感染症対策室

主事 中野美帆

去る6月15、16日、静岡市にお  
いて約170名余の方々の参加を  
得て、東海北陸地区別講習会を開  
催しました。

結核研究所等から講師を招き、  
結核患者を巡る現状、専門医から  
見た診断のポイント、結核対策の  
推進など広範な内容について知識  
を高めることができたと思います。  
全体講義後の分科会では、医師  
保健婦や行政担当者等が真剣に話  
を聞きメモをとっている姿を見て、  
このような取り組みを続けていけ  
ば、結核対策は必ず前進すると心

強く感じました。特に、開催日が平日であったにもかかわらず、県医師会の協力により医師の参加が多かったことを特徴として挙げることであります。

また、この講習会に引き続き、2日目の午後からは東海北陸の7県8市の行政担当者（保健婦、診査協議会委員を含む）を対象として、結核推進会議に移りました。愛知県、岐阜県、三重県及び静岡県を担当者から、それぞれの結核対策の概要や特対事業あるいは定期外集団検診の実施状況などについて報告がありました。出席者からの活発な質疑応答の後、報告された各事項について結核研究所の下内先生、小林先生から要点や課題、今後の対応などについて豊富な経験と専門性の上に立つた貴重な助言をいただきました。

この講習会等は、医療関係者や技術者のレベルアップにとどまらず、各県・市における結核対策の取り組みについて情報交換を行い、行政担当者のネットワークを広げ、認識を高め、交流を深める場として活用できました。

今後も、この会議を通じて広域的に結核の現状や問題点を把握し、結核に関する諸事情の改善に向けて効果的な対策が進展するよう期待しております。

### 近畿地区

京都府保健福祉部健康対策課感染症係  
主査 玉井公子

本年度、近畿地区の地区別講習会を京都府が担当し、去る6月22日、23日の両日、京都市で開催いたしました。

講習会には、289名もの参加があり、昨年発表された結核緊急事態宣言後の講習会ということで、関心の高さがうかがえました。

2日目の午後は、当番県の企画で、各地の特対事業の取り組みについてシンポジウムを開催しました。

まず、結核地域間格差について参加者の共通認識を図るため、図表を使っての話題提供のあと、各府県市の取り組みについて報告をいただきました。

兵庫県からは結核モデル診査会

事業について、大阪市からは大都市における結核治療率向上（DOTS）事業について、堺市からは小児結核罹患率低減化対策事業について、大阪府からは医師研修のあり方について、京都府からは保健医療連携の取り組みについて、それぞれ報告がありました。

各地域の実状に合わせ、問題解決のために各府県市が特対事業を推進されており、今後の事業推進の参考になりました。

特に、大阪市のDOTS事業の報告の中で、患者さんが看護婦との会話を楽しみに通つてくるという報告は、「人が人を治す」という結核対策の根幹に触れる思いがしました。

今後、西高東低の結核事情を改善するため、感染症としての結核の認識を新たにし、さらなる奮起を誓い、閉会となりました。

### 中国四国地区

高知県健康福祉部健康対策課感染症班  
班長 與名 良

中国四国地区における地区別講

習会は7月13～14日の両日開催され、各県・市担当者及び医療従事者など約180名の参加を得、盛況裡に終了した。

初日午後の分科会では、職種ごとに必要な最新の技術や知識等を学んだが、私自身、講師の方々の熱意に圧倒され、感銘を受けた。

今後実践すべき課題等を考えると思身が引き締まる思いであった。

2日目午後の「特対事業の企画・評価に関する研修」では、学会発表形式で、以下の四つの事業について発表された。①結核手帳作成事業（山口県）、②ハイリスク者対策事業、③ツベルクリン反応調査分析等事業、④結核集団感染報告書作成事業（②③高知県、④高知市）。

①では、新規登録患者本人が服薬状況等について記録し、療養の自己管理ができるよう整理された結核手帳が紹介され、訪問指導時の活用等が報告された。②③では、保健所による関係機関への精力的な働きかけ等の紹介、また④については、最大規模の結核集団感染事例を体験した保健所における一

連の対応経過等が報告された。

助言者としてご出席下さった結核研究所の山下先生、星野齊之先生、星野豊先生からは、個々事業ごとに、今後の取り組みにつなげていけるよう、きめ細かなアドバイスや激励の言葉をいただいた。フロアからの質問・発言等が少なく感じられたが、情報交換の場作りが不十分であったのかなと、少し切なく思っている。今後この様な講習会が、地域ごとの相互研鑽の場としてもっと生かされればと願う。

なお、その場では内容を紹介できなかつたが、各担当者から事前に提出いただいた特對事業の実施状況等の貴重な資料は、各自持ち帰り活用されたのではないかとと思う。

最後に、今回多数の参加者に恵まれたこと、講師の先生方にじかにご指導いただく機会を得たことに、対し、熱く感謝申し上げます。

## 九州地区

福岡県保健福祉部健康対策課

参事補佐 松尾美智代

九州地区の地区別講習会は7月18日、19日の両日、福岡市で開催されました。

この中で、特對事業の企画・評価に関する討議は、2日目の午後にもかかわらず170名を越える出席がありました。

今年度の討議では、結核緊急事態宣言や行財政改革の流れを受け「最小の予算で最大の効果」を上げるために、結核対策の「見直し」が迫られている現状を考慮し、「見直し」をテーマとしました。具体的には「研修」と「予防接種」を取り上げました。

「研修」については、まず、宮崎県からモデル事業への取り組みについて発表していただき、続いて各県の取り組みの現状と課題について報告していただきました。その中で、地域においては、行政側の一方的な「知識の伝達」ではなく、相手が必要としていることを踏まえた内容とすること、研修

の効果を継続評価すること、行政担当者の場合は、一貫した体系的な研修を受けられるような環境整備を図ることなどの「見直し」が必要との意見が出されました。「予防接種」については、佐賀県の保健所からツ反・BCGの評価事業についての報告をしていたいただきましたが、時間の関係で十分な議論には至りませんでした。地区別結核対策推進会議(仮称)の設置については、1日目の講習

会終了後1時間程度、各県及び政令市の行政担当者会議で検討されました。その中で、既存の九州地区の結核担当課長会議との関係をどう位置づけるかが焦点となりました。その後9月に開催された九州地区の結核担当課長会議で、担当者レベルによる地区別結核対策推進会議(仮称)の設置について承認が得られ、来年度開催へのスタート地点に立ったところです。

## 3月24日 世界結核デー

2001年テーマ決まる

“DOTS すべての人に治療の機会を”

今、世界の結核の状況は、毎年800万人が発病し、200万人が結核によって死亡していると言われ、ここ数年変わっていません。しかし、DOTS戦略の恩恵を受けている人は全世界の43%に達し(98年末現在)、効果的な治療を受けられる患者が増えていると言えます。

WHOが掲げる2001年世界結核デーのテーマは「DOTS すべての人に治療の機会を“DOTS TB cure for All”」です。世界中の誰もが健康を享受する権利があり、いかなる差別もなく、すべての結核患者が治療に結びつく治療を受けられるよう、呼びかけましょう。

患者の治療結果は貧富の差、性別、大人と子供など、様々な因子によって左右されています。

このテーマの下、結核の治療が人間の権利として広く認識され、世界的な結核問題に早急な解決が図られることが期待されます。

(関連ホームページ(英語): <http://www.stoptb.org>)  
(<http://www.who.int/gtb>)